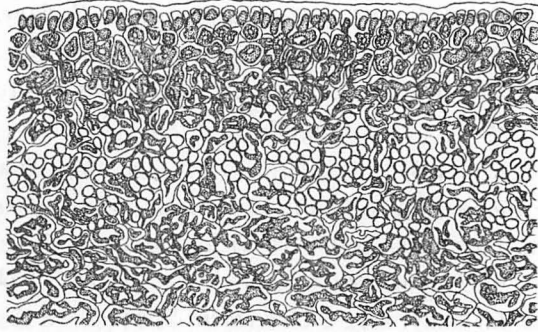


記の表中にはない。他にセイロンモスと云うのはカタオゴノリ (*Gracilaria lichenoides*) の別名である。

オゴノリが南方から多量に輸入されることは屢々聞いていたが、実際にこの問題に当り、いろいろな事を考察し得たのははじめてであったので、興味ある事実として報告する次第である。



第 4 圖

Gelidium corneum (HUDSON) LAMOUROUX
var. β *sesquipedale* GREVILLE
体の横断面の一部 × 265

(三重縣立大學水産學部)

オゴノリの學名變更について

近 江 彦 榮

寒天原藻の一つとして最近特に重要視されるに至つたオゴノリは、世界中に分布する *Gracilaria confervoides* に同定されていることは周知の通りである*。ところが最近、PAPENFUSS (1950) は *Gr. verrucosa* (HUDSON) PAPENFUSS なる新結合名を提唱し、*Gracilaria confervoides* (L.) GREV. をその異名としている。北米太平洋沿岸のオゴノリ科を研究した DAWSON (1949) も、最近の論文 (1953) にこの新結合名を採用している。それで PAPENFUSS の論分に基いて学名變更の由来を紹介したいと思う。

Gr. confervoides なる学名の来歴は、1809年に STACKHOUSE が新設した *Flagellaria* 属にさかのぼることが出来る。彼はこの属に6種を設けたが、この *Flagellaria* なる属名は LINNAEUS が既に1753年に顕花植物の1属の名に用いたものであつたので、GREVILLE (1830) は STACKHOUSE の6種の一つ、*Flagellaria confervoides* を土台として *Gracilaria confervoides* を提案し、STACKHOUSE の他の3種、*F. verrucosa*, *F. gracilis*, 及び *F.*

* 岡村博士の“能州の海藻”植物學雜誌, 7 (75), 1893年 (明治26年) の目録の中にあるのが、日本に於ける最初の記載ではないかと思う。

simplex をもこれに合併した。他の1種、*F. flagelliformis* は AGARDH, C. A. (1817) に依り *Chordaria flagelliformis* とされ、残りの1種、*F. plicata* は FRIES (1853) に依つて *Ahnfeltia plicata* とされた。

さて、この *Flagellaria* なる属名は恐らく *Fucus flagellaris* ESPER (1800, p. 193) に由来するものと思われるが、TURNER (1809, p. 30) はこれを *Fucus confervoides* L. (即ち *Gracilaria confervoides*) と同種としており、DE. TONI (1900, p. 438) は *Gr. compressa* と同種としている。

一方 SCHMITZ (1889, p. 443) 及び KYLIN (1932, p. 58) は *Gr. confervoides* (L.) GREV. を以て *Gracilaria* 属の代表種と確認した。所が上記の *Fucus confervoides* L. (1763, p. 1629) はその前年発表された *Fucus confervoides* HUDSON (1762, p. 474) と homonym である事が後に知られ、更にそれは HUDSON が同じ論文の前の方 (1762, p. 470) に記載した *Fucus verrucosus* と同一種類と考えられるから、priority を重んずれば、*Gracilaria confervoides* (L.) GREV. なる学名の代りに、*Gr. verrucosa* (HUDS.) PAPENFUSS なる新結合名を用いるのが妥当であるというのである。ただ問題は、この海藻が cosmopolitan で且つ有用種であるため、*Gr. confervoides* という従来学名が世界中に広く使い慣らされているので、いま俄かに新しい名に改めることは、当分の間、或る程度の不便を免れないだろうという点である。

終りに、御校閲を賜つた時田先生に深謝の意を表す。

文 献

- AGARDH, C. A. (1817): Synopsis algarum scandinaviae. Lund.-DAWSON, E. Y. (1949): Studies of Northeast Pacific Gracilariaceae. Allan Hanc. Found. Publ., Occ. Paper (7), 1-105.-DAWSON, E. Y. (1953): On the occurrence of Gracilariopsis in the Atlantic and Caribbean. Bull. Torrey Bot. Club, 80 (4), 314-316.-DE TONI, J. B. (1900): Sylloge algarum, 4, (2). Patavii.-ESPER, E. J. C. (1800): Iconus fucorum, 4, Nürnberg.-FRIES, E. M. (1835): Corpus florarum provincialium sueciae. 1. Floram scanicam. Uppsala.-GREVILLE, R. K. (1830): Algae britannicae. Edinburgh.-HUDSON, W. (1762): Flora anglica. London.-KYLIN, H. (1932): Die Florideenordnung Gigartinales.-LINNAEUS, C. (1753): Species plantarum. Stockholm.-OKAMURA, K. (1893): 能州の海藻, 植物学雑誌, 7 (75), 110-113.-PAPENFUSS, G. F. (1950): Review of the genera of algae described by Stackouse. Hydrobiologia, 2, (3), 195.-SCHMITZ, C. J. F. (1889): Systematische Uebersicht der bisher bekannten Gattungen der Flordeen. Flora 72.-STACKHOUSE, J. (1809): Tentamen marino-cryptogamicum, Mém. Soc. Imp. Nat. Moscow, 2, 50-79.-TURNER, D (1809): Historia fucorum, 2. London.

(函館市北海道大学水産学部)